

PARS-TR (親面接式自閉スペクトラム症評定尺度)

評定日 2023年6月30日 検査者 江刺逸生
 評定対象 川和田様 年齢 6歳 (小学校1年生) 評定者 母親

* 幼児期ピーク…幼児期の中でも、症状が最も顕著な時期 * 現在…最近の症状
 →2つの時期について評定を行うのは、例えば4歳以前の明確な自閉症状が5歳以降に軽減しうるからである

質問項目	回答	就学前 (幼児期)		
		評定	現在 (2023年1月以前)	現在 (2023年1月以降)
1 視線が合わない	合わない。視線を合わせようとしても、逃げてしまう。	2	2	2
2 他の子どもに興味がない	他児への興味は全くなし。他児が近づくと嫌がることもある。	2	2	2
3 名前を呼んでも振り向かない	3歳頃まで無反応だったが、少しずつ反応が増えた。この半年でさらに反応がよくなっている。	2	1	0
4 見せたい物を持つてくることがない	自分ひとりで楽しみ、周りに共有することがない。	2	2	2
5 指さして興味のあるものを伝えない	これまではクレーン現象のみ。しかし、最近絵本を見ながらイラストを指さすことがある。この半年の変化だが、療育の影響もあるのかもしれない。	2	2	1
6 言葉の遅れがある	始語は4歳。現在も二語文は出ていない。	2	2	2
7 会話が流かない	この1年、いくつかの単語やオウム返しで応答するようになった。ただ、言葉のキャッチボールというところには至っていない。	2	1	1
8 一方通行に自分の言いたいことだけを言う	自発的に気持ちを言葉にすることはほとんどない。	9 (言語水準の問題で評定不能)		
9 友達とごっこ遊びをしない	3-4歳までは全くなし。最近は大人にリードしてもらおう形であれば、ごっこ遊びをする。	2	1	1
10 オウム返しの応答が目立つ	1年前までは声をかけても無反応だった。最近「食べる？」とたずねると「食べる？」と応じるなど、オウム返しが見られる。特に、どう言えばいいのか分からないときに生じる。	1	1	1
11 CMなどをそのままの言葉で繰り返す言う	関係のない場面でも、好きな番組のセリフを繰り返したり歌を歌い続けたりする。この半年でパリエーションが増えた。	2	2	2
12 感覚遊びに没頭する	以前は砂遊びに没頭していたが、3-4歳になると水遊びへ移行した。なかなかやめられず、2時間以上遊び続けることもあった。この半年で執着が弱まっており、最近は数分でやめている。	2	2	1

2時間
没頭

言葉
は
遅
い

7月

→1
→1

13	道路標識やマーク、数字、文字が大好きである	数字の入った玩具を気に入っており、いつも並べている。	1	1	1
14	くるくる回るものを見るのが好きである	3歳頃、くるくる回るものを見ていた時期があった。それほど執着していたわけではない。	1	0	0
15	物を横目で見たり、極度に目に近づけて見たりする	なし。	0	0	0
16	玩具や瓶などを並べる遊びに没頭する	3歳頃から半年前まで、ひたすら玩具を並べ続けていた。制止も難しかったが、この半年で抵抗が減っている。	2	2	1
17	つま先で歩くことがある	なし。	0	0	0
18	多動で、手を離すとどこに行くかわからない	目を離せない状態が続いている。外出時は手を押さえつける必要がある。	2	2	2
19	食べ物でないものを食べたり呑み込んだりする	なし。	0	0	0
20	抱っこされるのを嫌がる	なし。	0	0	0
21	ビデオの特定場面を繰り返し見る	好きな番組の同じシーンを繰り返し見る。制止することはできない。	2	2	2
22	ページめくりや紙破りなど、物を同じやり方で繰り返しじじる	この半年、紙に○を描き続けている。制止することはできない。	2	2	2
23	全身や身体の一部を、同じパターンで動かし続けることがある	なし。	0	0	0
24	身体に触れられることを嫌がる	なし。	0	0	0
25	同じ質問をしつこくする	なし。	0	0	0
26	普段通りの状況や手順が急に変わると混乱する	半年前までは状況の変化に弱かったため、旅行など考えられない状況だった。しかし、この半年で落ち着いて対応できるようになり、初めて旅行に出かけた。最近は保育園で予定の変更があった際も、混乱しない。	2	2	0
27	生活習慣が乱れ、身辺自立ができなくなる	なし。	0	0	0
28	過去の嫌なことを思い出して、不安定になる	なし。	0	0	0
29	偏食が激しく、食べ物のレパートリーが極端に狭い	野菜・果物全般が嫌いでも全く食べない。基本的に白米・うどんのみ食べ、時々肉類が加わる程度。	2	2	2
30	特定の音を嫌がる	新幹線の通過音は嫌がり、母親に自分の耳を塞ぐよう求めてくる。	1	1	1
31	痛みや熱さなどに鈍感であったり、敏感である	なし。	0	0	0
32	何でもないものをひどく怖がる	なし。	0	0	0

全時
→減る

減る
→いる

減る
→減る
→いる

少し
→改善

33 急に泣いたり怒ったりする	半年前までは一日中癇癇を起こすような状態だった。しかし、この半年で激減している。最近はお腹が空いていたり眠たかったりと、生理的な欲求があるときのみ。	2	2	1	→0
34 頭を壁に打ちつける、手を咬むなど、自分が傷つくことをする	なし。	0	0	0	
合計		38	34	27	

所見

幼児期ピークは38点と高く、ASD特性が強いと言える。治療前は、34点とほとんど横ばいで経過していた。しかし、この半年で疎通性が上がり、現在は声をかけると反応が返ってくる状態である。また、常同的な行動を繰り返す時間が減り、急な予定の変更にも対応できるようになった。癇癇も落ち着き、情緒的に安定してきている。

幼児期ピーク（9点以上でASDが強く示唆される）	38
現在（参考値：2023年1月以前）	34
現在（参考値：2023年1月以降）	27